

琉球大学医学部附属病院がんセンター  
平成27年度がん患者等支援事業

# がん療養場所ガイド活用説明会in 竹富町（西表島）に関する報告書

2016年3月18日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を竹富町（西表島）で実施した。活用説明会では大原診療所長の山腰医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、竹富町役場、西表西部診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 竹富町（西表島）

開催にともなう面会依頼

（竹富町役場）

日 時：平成28年3月18日（金）13:00～13:30

場 所：竹富町役場

出席者：竹富町長 川満 栄長 様

竹富町役場 健康づくり課長 前石野裕和 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉未央

（西表西部診療所）

日 時：平成28年3月18日（金）16:45～17:15

場 所：西表西部診療所

出席者：西表西部診療所長 幸喜翔様

西表西部診療所 職員の皆様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田昌人

■療養場所ガイド活用説明会 in 竹富町（西表島）

日 時：平成28年3月18日（金）19:30～20:30

場 所：竹富町離島振興総合センター

内 容：（1）ご講演「西表島でできるがん医療」

大原診療所長 山腰晃治 医師

（2）「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田昌人

（3）質疑応答

タイムスケジュール：19:30～19:50（1）「西表島でできるがん医療」

19:50～20:20（2）「本書の使い方、入手方法について」

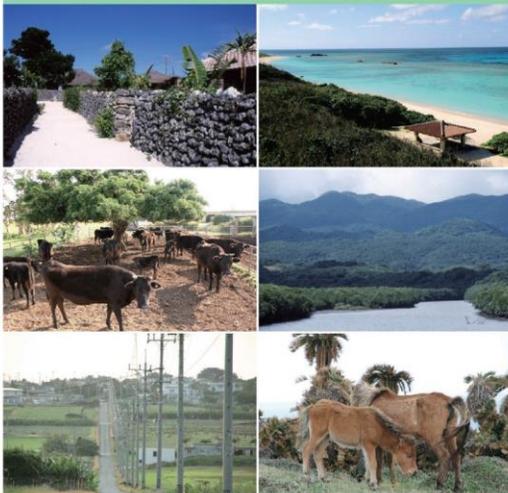
20:20～20:30（3）質疑応答

# がん療養場所ガイドブック 活用説明会

## 沖縄県 がん患者さんのための 療養場所ガイド 1

竹富町・与那国町編

琉球大学医学部附属病院 がんセンター編



### プログラム

- 1.西表島でできるがん医療について  
大原診療所長 山腰 晃治 先生
- 2.本書の概要・使い方について  
配布および入手方法について  
琉球大学医学部附属病院がんセンター  
がんセンター長 増田 昌人
- 3.質疑応答

現在、多くのがん医療は八重山病院や徳洲会病院で可能です。石垣市の病院と地元診療所の連携によって、より多くのがん医療が西表にお住いのがん患者さんに提供できるようになっています。今回の説明会では、地元や石垣市でできるがん医療について、専門家の立場からお話したいと思っています。



琉球大学医学部附属病院  
がんセンター長 増田 昌人

2016. **3.18** (金)  
**19:30 - 20:30**

竹富町離島振興総合センター  
1階 大ホール

八重山郡竹富町南風見201-47

主催:琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業 協力:大原診療所 竹富町 竹富町役場健康づくり課

# がん患者さんのための療養場所ガイド 活用説明会 in 西表

琉球大学医学部附属病院がんセンター  
増田 昌人

# 西表大原診療所でできる がん医療について

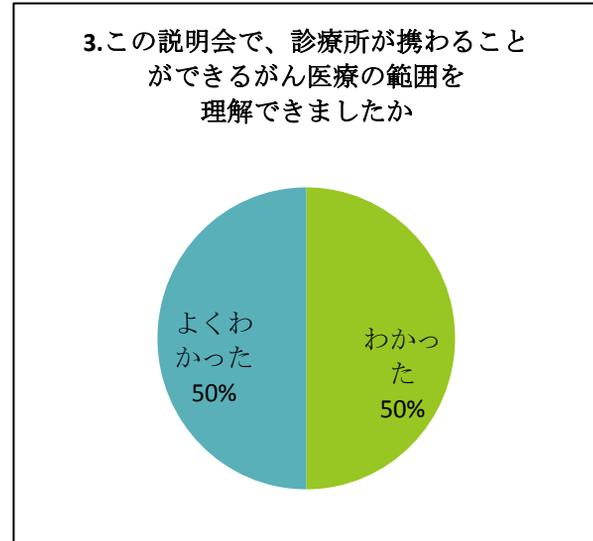
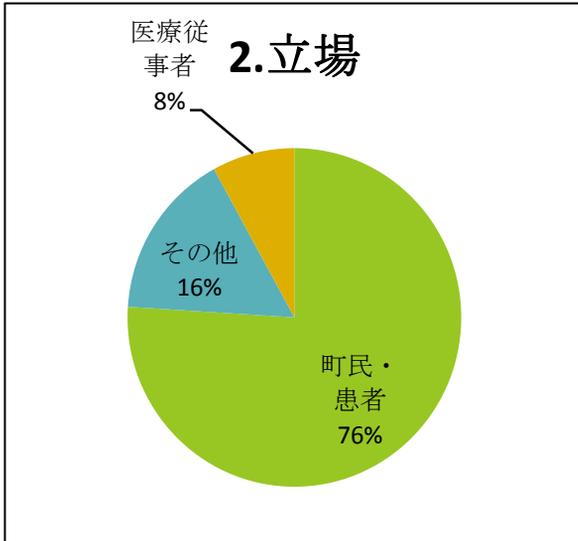
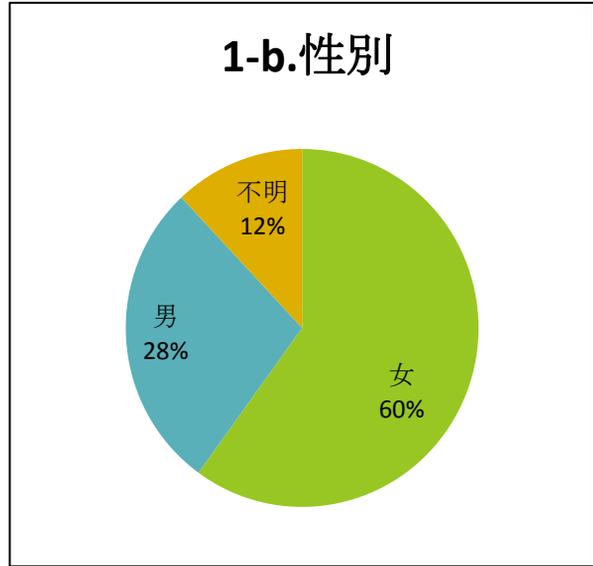
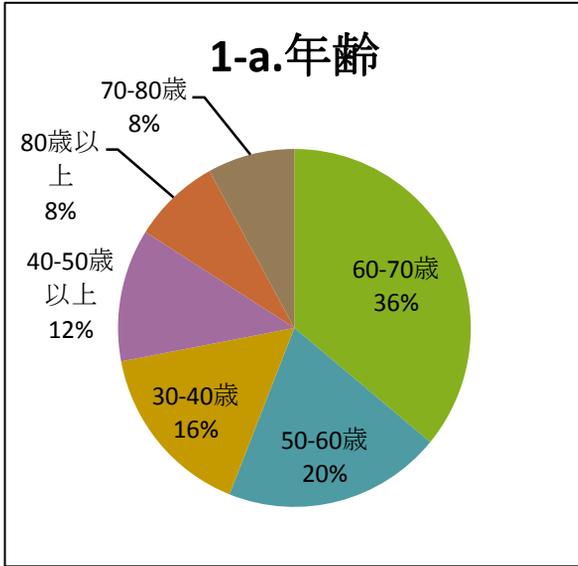
-がん療養場所ガイド活用説明-

大原診療所 山腰晃治

2016年3月18日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会in竹富町（西表島）

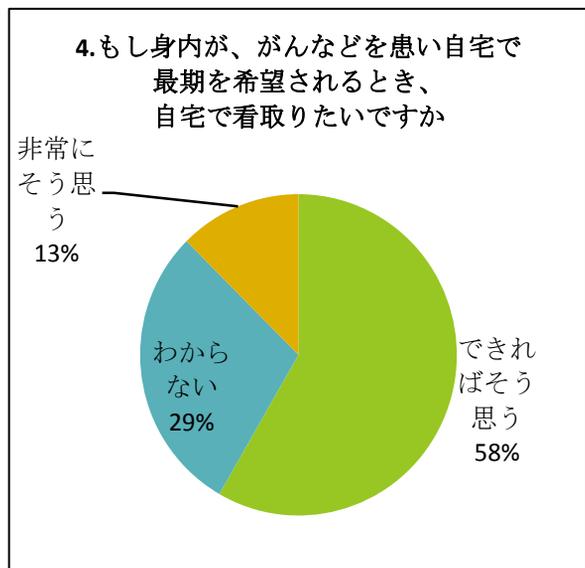
参加者37人 アンケート回答率67.6%



2016年3月18日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会in竹富町（西表島）

参加者37人 アンケート回答率67.6%



5.「4」の理由を教えてください

がんの種類、症状とかその時の家の状況によって変わってくる

できる限り一緒に過ごしたい。

もしも治療しても治らないなら住み慣れた家で最後を迎えたいと思います。住み慣れているほうが落ち着くと思います。

最期の希望なのでなるべくかなえてあげたい。

施設で束縛されるよりも自由に思いのままに生活できるところが精神的にも良いと考える。

自分が介護職なので看取りは行いたい

自分になにができるが出来るか？不安。

身内が希望する最期にしたい。

日常生活が困難になったとき、対応ができるのか心・不安があるが、本人の希望を聞き、できるだけそれを叶えるようにしたい。祖父・祖母も病院だったので自宅での看取りがどういうふうになるのかわからないので、詳しい情報が知りたい。

本人が安心して過ごせる場を作ってあげたいから！経験から看取る側も厳しい現状にあることも。

本人が希望すれば。

本人の希望するのであればそうさせてあげたいし、最後は自宅で見送りたい。

本人の希望なら。

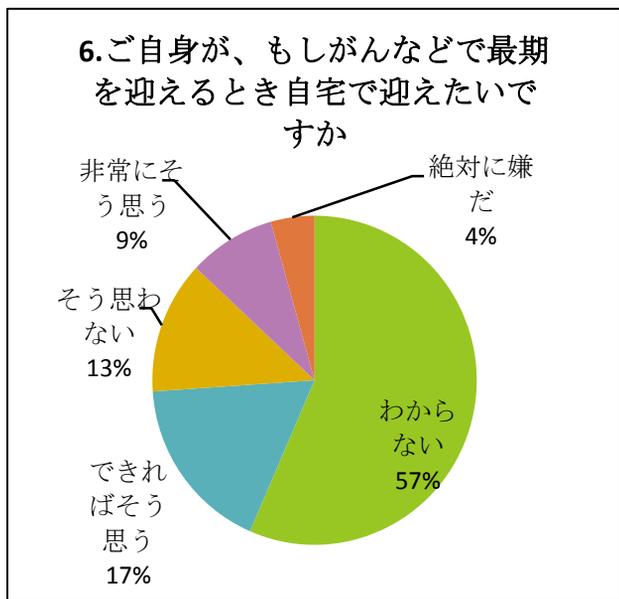
本人の希望に答えたいと思うかも

本人次第、できれば看取りたいと思う。

2016年3月18日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会in竹富町（西表島）

参加者37人 アンケート回答率67.6%



7. 「6」の理由を教えてください

5と同じ。

あまり家族に負担をかけたくない。

あ家族と話し合いをしないとわからないこともあるかも。

そうしたい思いますが、家族の意見を重視したいと思う。

できるだけ自宅で過ごしたいが家族の負担がとても大きくなるため、最後は病院で迎えたいと思う。

どういう状態かわからないから。

一番安心できる、ホッとできる所だから。

家ではなくて山の中か海の中で死にたい

家族に迷惑をかけたくないし、自分が望んでも果たして家族が心よく受けてくれるのかが気になる。今はわからない。

家族の負担が大きい

今日はがんの話が聞いてよかったです

自身のメンタルケアとか子供達に負担をかけたくないなどからして、自宅以外を自由に選びたい。

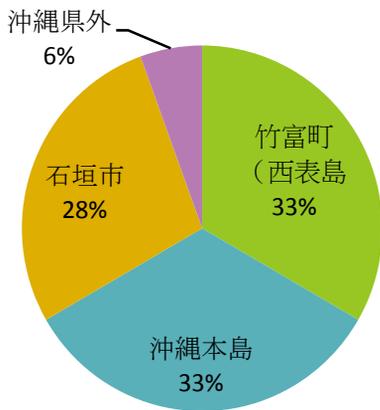
自分自身だと周囲に迷惑じゃかいと思ってしまう。

2016年3月18日（金）

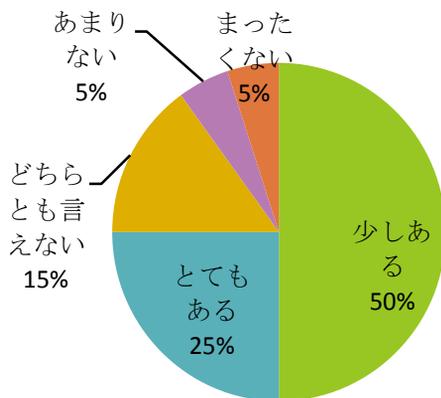
がん療養場所ガイドブック活用説明会in竹富町（西表島）

参加者37人 アンケート回答率67.6%

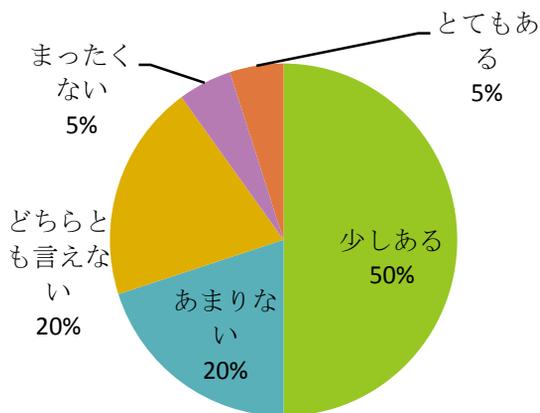
8.もしあなたががんになったら、  
どこで治療したいと思いますか



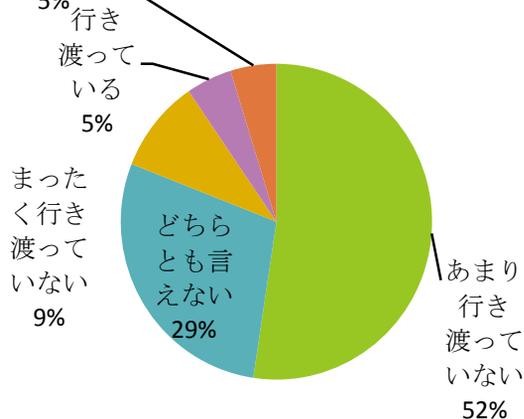
9.がんになったとき、  
竹富町（西表島）で治療することに  
不安はありますか



10.がんになったとき、石垣市で  
治療することに不安はありますか



11.竹富町（西表島）では、  
がんの療養について十分な情報  
が行き渡っていますか

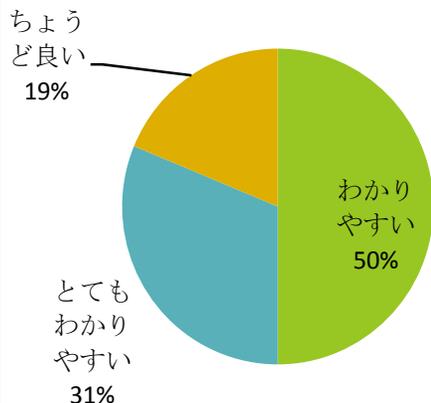


2016年3月18日（金）

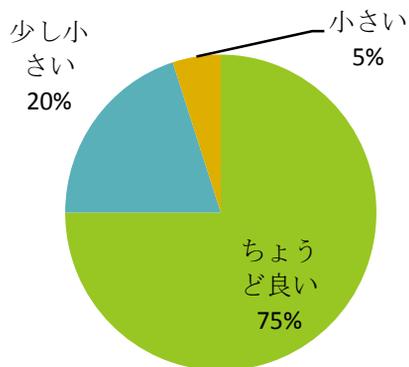
がん療養場所ガイドブック活用説明会in竹富町（西表島）

参加者37人 アンケート回答率67.6%

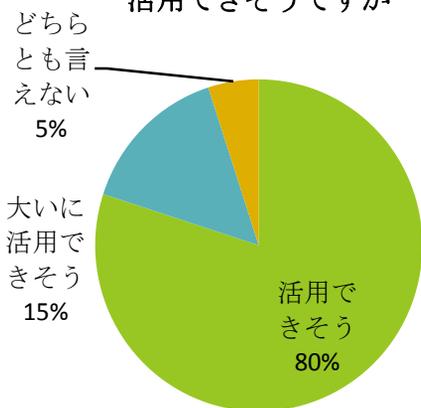
12.がん療養場所ガイドブックの内容についてどう思われますか



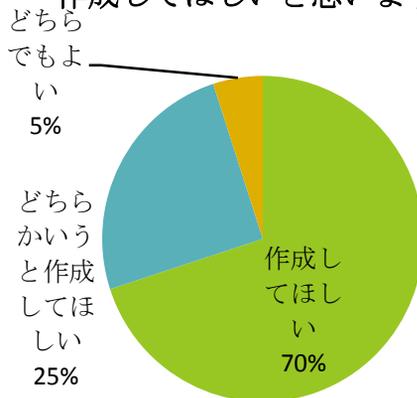
13.がん療養場所ガイドブックの文字の大きさ（フォントサイズ）についてどう思われますか



14.がん療養場所ガイドブックを活用できそうですか



15.この冊子を、今後も継続して作成してほしいと思いますか



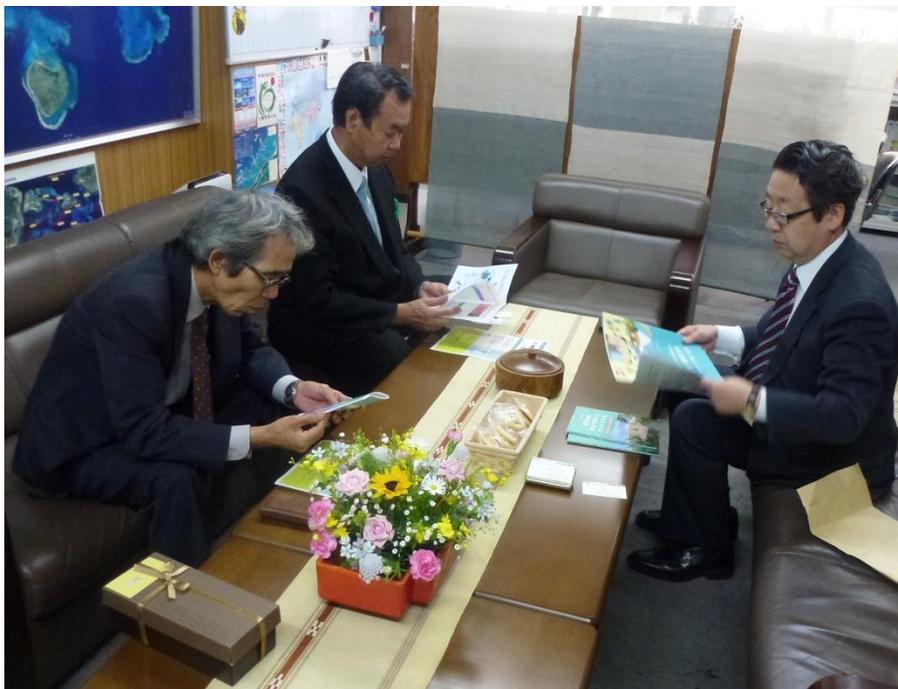
16. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

- がんについて考える機会ができました。ありがとうございました。
- がんに対する不安が大きいと思うので、時々このような講演があるとよいです。
- とても参考になりました。ありがとうございました。
- とても参考になりました。ありがとうございます。
- 貴重なお話しありがとうございました。
- 今日の説明会に参加して理解できたのでよかったです。
- 死ぬときってどうなるの？とか、看取りについての資料や説明があるとよいかなと思います。
- 大変よかったです。ありがとうございました。
- 離島のがんの療養などについて具体的に考えながら知ることができたのでよかったです。

## ○ 当日の様子

### ■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 竹富町（西表島） 開催にともなう面会依頼

（竹富町役場）



（西表西部診療所）



■療養場所ガイド活用説明会 in 竹富町

講演：「西表島でできるがん医療」大原診療所長 山腰 晃治 医師



講演：「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



琉球大学医学部附属病院がんセンター  
平成27年度がん患者等支援事業

# がん療養場所ガイド活用説明会in 座間味村に関する報告書

2016年3月22日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を座間味村で実施した。活用説明会では座間味診療所長の森医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、座間味村役場、座間味診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 座間味村

開催にともなう面会依頼

(座間味村役場)

日時：平成28年3月22日(火) 15:00~15:30

場所：座間味村役場

出席者：座間味村長 宮里哲 様

座間味村役場 総務・福祉課長 宮平壮一郎 様

座間味村役場 総務・福祉課 保健師 渡真利木綿子 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉未央

(座間味診療所)

日時：平成28年3月18日(金) 17:00~17:30

場所：座間味診療所

出席者：座間味診療所長 森英毅 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉未央

■療養場所ガイド活用説明会 in 座間味村

日時：平成28年3月22日(火) 13:00~14:00

場所：座間味村役場 3階 多目的室

内容：(1) 講演「座間味村でできるがん医療」

座間味診療所長 森英毅 医師

(2) 「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田昌人

(3) 質疑応答

タイムスケジュール：13:00~13:20 (1) 「座間味村でできるがん医療」

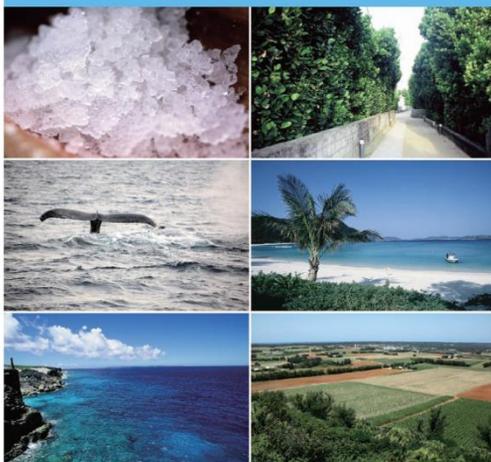
13:20~13:50 (2) 「本書の使い方、入手方法について」

13:50~14:00 (3) 質疑応答

# がん療養場所ガイドブック 活用説明会

## 沖縄県 がん患者さんのための 療養場所ガイド 7

本島周辺の離島村編  
(粟国村・渡名喜村・座間味村・源高敷村・北大東村・南大東村)  
琉球大学医学部附属病院 がんセンター編



### プログラム

1. 座間味村でできるがん医療について  
座間味診療所長 森 英毅 先生
2. 本書の概要・使い方について  
配布および入手方法について  
琉球大学医学部附属病院がんセンター  
がんセンター長 増田 昌人
3. 質疑応答

現在、多くのがん医療は本島中南部の医療機関で行われています。しかし、病院と地元診療所の連携によって、より多くのがん医療が本島周辺の離島にお住いのがん患者さんに提供できるようになっています。今回の説明会では、地元や本島中南部でできるがん医療について、専門家の立場からお話したいと思っています。



琉球大学医学部附属病院  
がんセンター長 増田 昌人

2016. **3.22** (火)  
**13:00 - 14:00**

日時：3月22日（火）13時～14時  
場所：座間味村役場 3階 多目的室  
対象：座間味村にお住まいのみなさん  
申込：不要 当日直接会場にお越しください  
参加費：無料  
問合先：琉球大学医学部附属病院がんセンター  
098-895-3331（内線4359・1374）

## 座間味村役場 3階 多目的室

座間味村字座間味109 電話（総務・福祉課直通）098-896-4045

主催：琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業 協力：座間味診療所 座間味村役場総務・福祉課

# 座間味島で できるがん医療

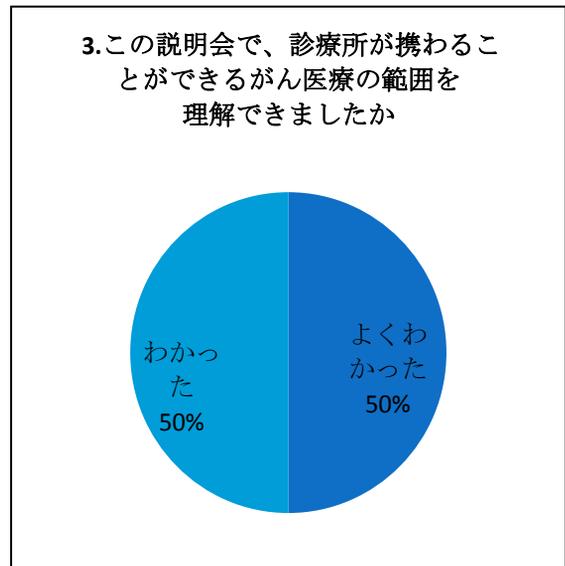
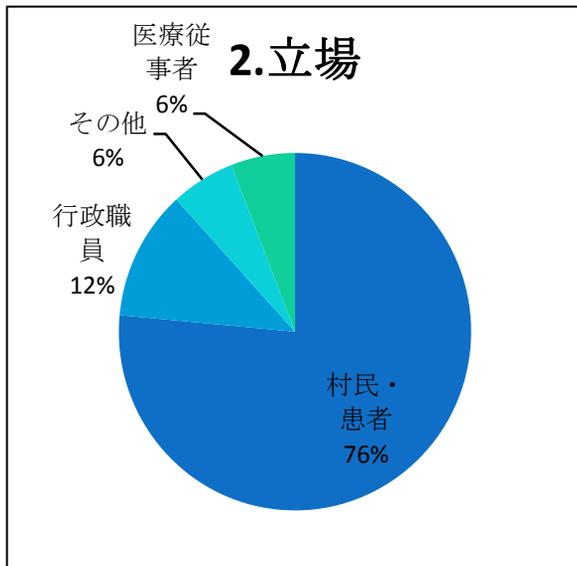
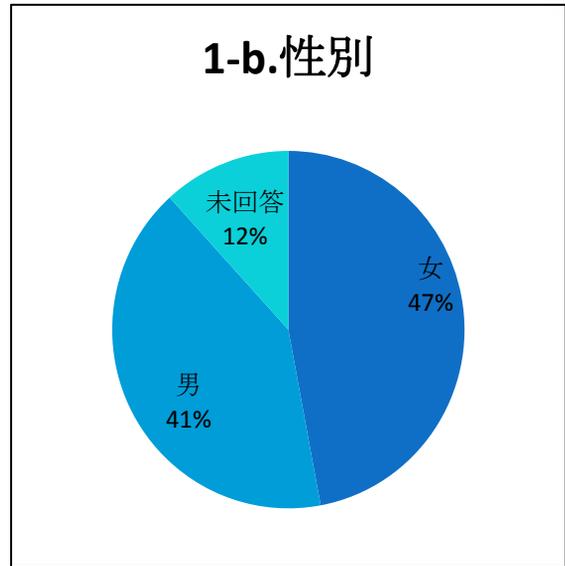
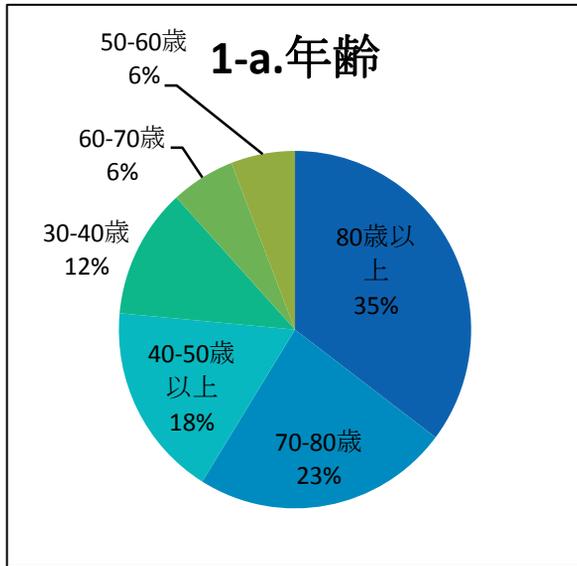
2016.3.22

座間味診療所 森 英毅

がん患者さんのための療養場所ガイド  
活用説明会 in 座間味

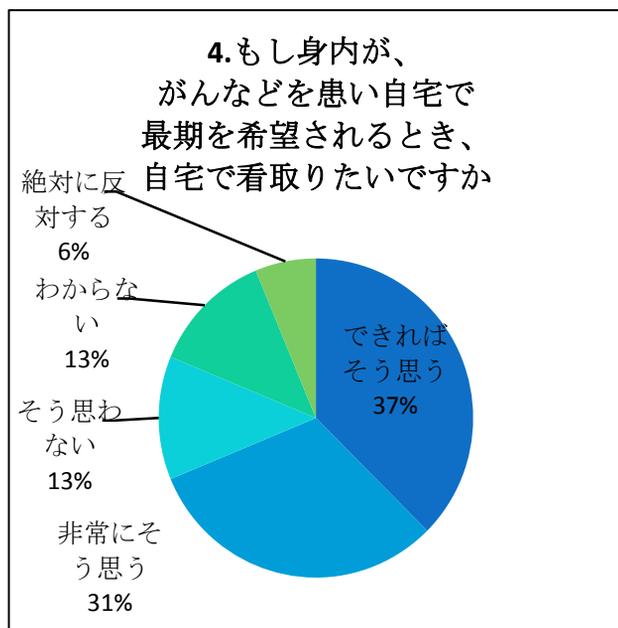
琉球大学医学部附属病院がんセンター  
増田 昌人

2016年3月22日（火）  
がん療養場所ガイドブック活用説明会in座間味村  
参加者19人 アンケート回答率89.5%



2016年3月22日（火）

がん療養場所ガイドブック活用説明会in座間味村  
参加者19人 アンケート回答率89.5%



5. 「4」の理由を教えてください

延命治療で苦しんだ父を見ているので。

延命処置を受けたくない。

最終的に人は血統のある人に看取ってもらいたいと思います。安心して、心おきなく生涯を終わらせてあげたいし、看取るほうも心が安らぐと思います。

治らないなら、ずっと一緒に過ごして最期まで安心して生きて欲しいから。

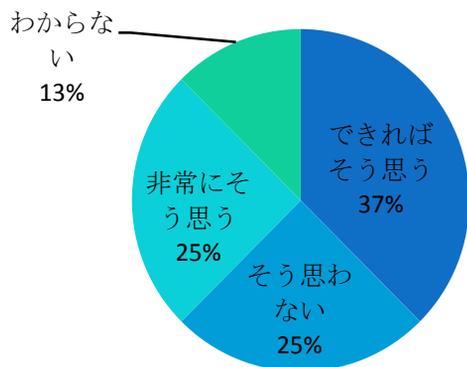
自宅でできることをしたいと思います。

本人が望むようにしたい。

本人の意思を優先。精一杯の看病をしたい。

2016年3月22日（火）  
がん療養場所ガイドブック活用説明会in座間味村  
参加者19人 アンケート回答率89.5%

6.ご自身が、もしがんなどで  
最期を迎えるとき  
自宅で迎えたいですか



7. 「6」の理由を教えてください

やはり自宅が……

延命治療はしてほしくないから。

家族と一緒にいたい。

家族に負担がかかると思うので、私は病院で最期を迎えたい。

家族に迷惑をかけたくない。

自宅にいることにより精神的安心が保たれ、家族の顔を見ながら安心して永眠できると思うので。

周囲に迷惑を掛けたくない（周囲に気を使いたくない）。自由が効く（わがママが言える）。

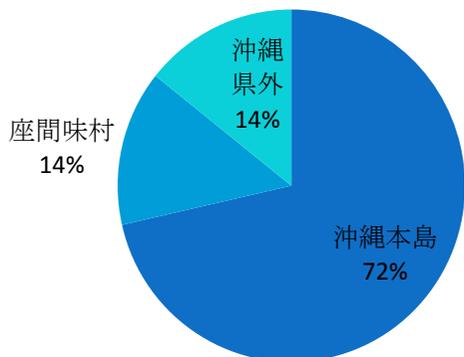
病院は治療の場でしかないと思うから、家族の元にいたいと思う。

2016年3月22日（火）

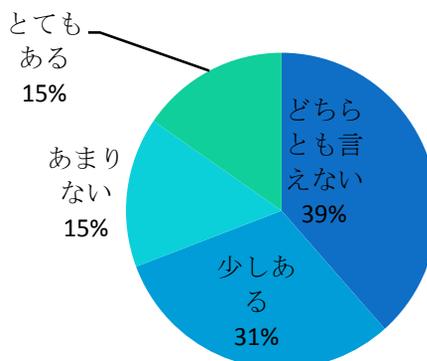
がん療養場所ガイドブック活用説明会in座間味村

参加者19人 アンケート回答率89.5%

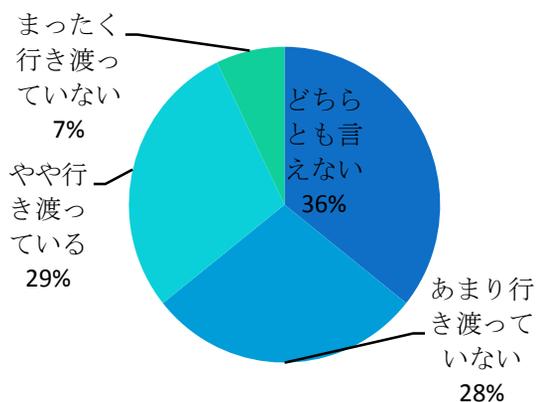
8.もしあなたががんになったら、  
どこで治療したいと思いますか



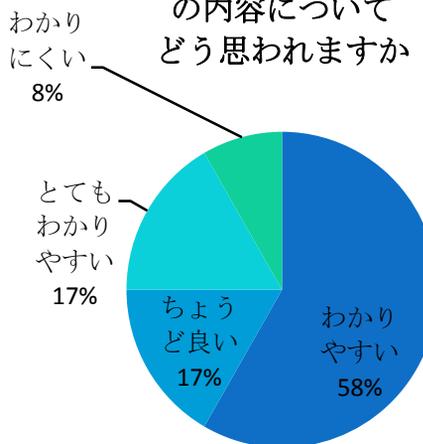
9.がんになったとき、座間味村  
で治療することに不安はあり  
ますか



10.座間味村では、  
がんの療養について  
十分な情報が行き渡っていますか



11.がん療養場所ガイドブック  
の内容について  
どう思われますか

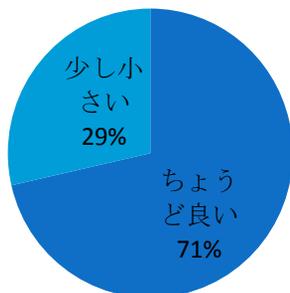


2016年3月22日（火）

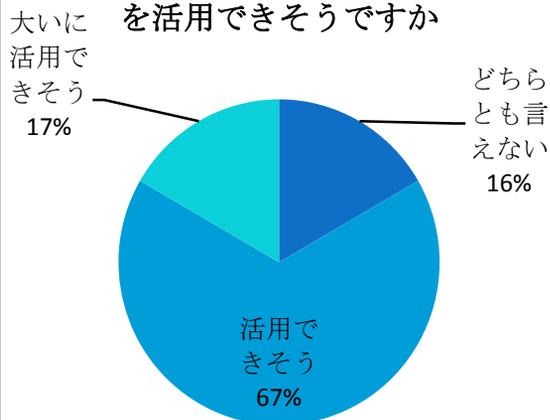
がん療養場所ガイドブック活用説明会in座間味村

参加者19人 アンケート回答率89.5%

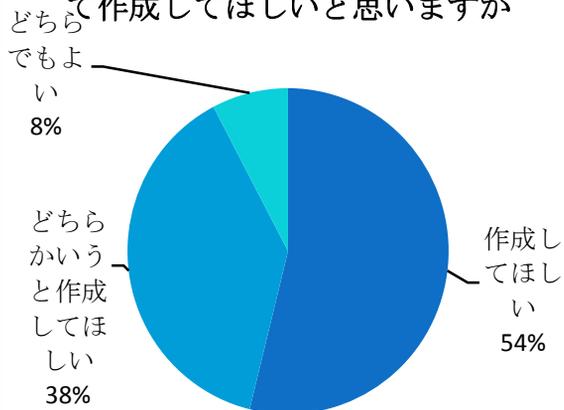
12.がん療養場所ガイドブックの文字の大きさ（フォントサイズ）について



13.がん療養場所ガイドブックを活用できそうですか



14.この冊子を、今後も継続して作成してほしいと思いますか



15. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

もっと多くの住民に聴いてほしいと思いました。参加者への呼びかけをもっと多くしてもいいのでは。お疲れ様でした……。

今回出席できてとてもよかったです。身内ががんで亡くなっているので今後の対処法の参考にします。

今後も継続して欲しい。

特に高齢の方も喜んでいました。継続してほしいです。

内容をもう少し検討が必要であると思う。あまり離島に特化した感じがしないので。がんサポートハンドブックのほうが今後使っていけると思う。

## ○ 当日の様子

### ■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 座間味村 開催にともなう面会依頼

(座間味村役場)



(座間味診療所)



■療養場所ガイド活用説明会 in 座間味村

講演：「座間味島でできるがん医療」 座間味診療所長 森 英毅 医師



講演：「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



琉球大学医学部附属病院がんセンター  
平成28年度がん患者等支援事業

# がん療養場所ガイド活用説明会in 与那国島に関する報告書

2016年7月15日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を与那国町で実施した。活用説明会では与那国町診療所長の並木医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、与那国町役場、与那国町診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 与那国島

開催にともなう面会依頼

(与那国町役場)

日時：平成28年7月15日（金）16：00～16：30

場所：与那国町役場

出席者：与那国町長 外間 守吉 様

与那国町役場 長寿福祉課長 小嶺長典 様

与那国町役場 長寿福祉課 保健師 与那覇ひとみ 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター一長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

(与那国町診療所)

日時：平成28年7月15日（金）16：40～17：10

場所：与那国町診療所

出席者：与那国町診療所長 並木 宏文 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター一長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

■療養場所ガイド活用説明会in与那国島

日時：平成28年7月15日（金）19：00～20：00

場所：与那国町保健センター 1階 大ホール

内容：（1）講演「与那国島でできるがん医療」

与那国町診療所長 並木 宏文 医師

（2）「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター一長 増田 昌人

（3）質疑応答

タイムスケジュール：19：00～19：20（1）「与那国島でできるがん医療」

19：20～19：50（2）「本書の使い方、入手方法について」

19：50～20：00（3）質疑応答

## がん患者さんのための 療養場所ガイド

竹富町・与那国町編

琉球大学医学部附属病院 がんセンター



# がん療養場所 ガイドブック 活用説明会 in 与那国島

与那国島のみなさまへ

現在、多くのがん医療が八重山病院や石垣島徳洲会病院で行われています。また地元診療所と連携して、できるがん医療も多くなってきています。

今回の説明会では、与那国島や石垣島でできるがん医療について、専門家の立場からお話したいと思っています。

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長  
増田 昌人

（講演）

- ・与那国島でできるがん医療について 与那国町診療所 並木 宏文 先生
- ・本書の概要と使い方について 琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

日時：7月15日(金) 19:00-20:00(18:30開場)

場所：与那国町保健センター 大ホール

対象：与那国島にお住まいのみなさん

参加費：無料 事前申し込み不要

主催：琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業

内容に関するお問い合わせ：琉球大学医学部附属病院 がんセンター ☎ 098-895-3331(内線4359・1374)



与那国で可能な  
がん医療について

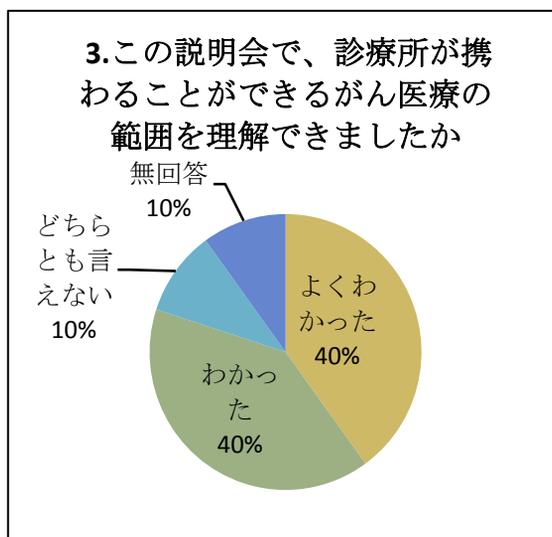
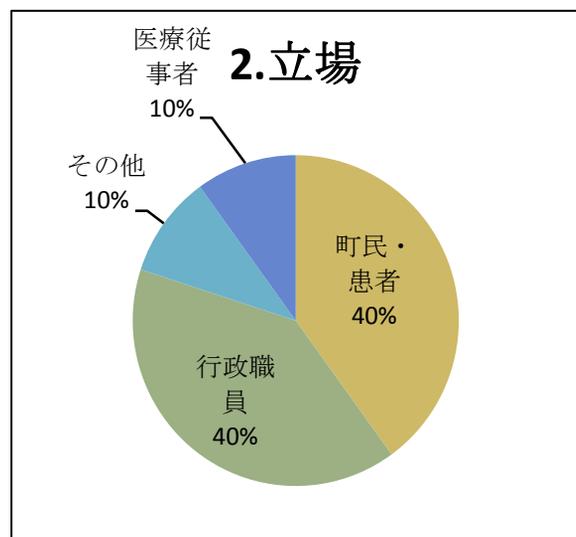
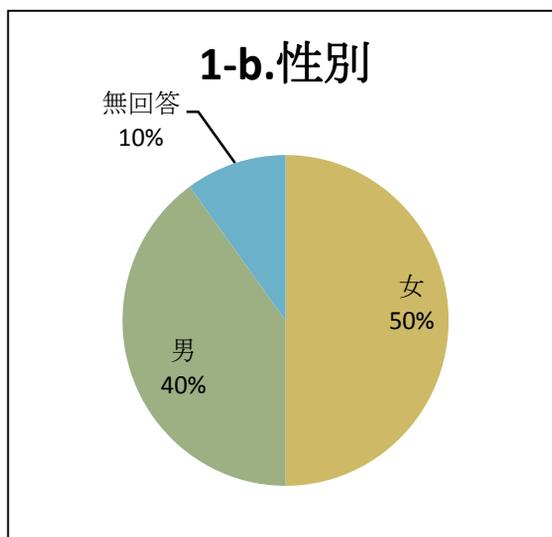
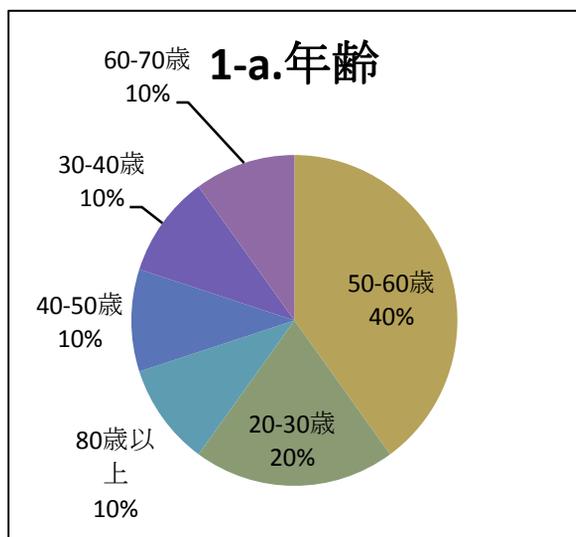
与那国町診療所  
並木 宏文

がん患者さんのための療養場所ガイド  
活用説明会 in 与那国

琉球大学医学部附属病院がんセンター  
増田 昌人

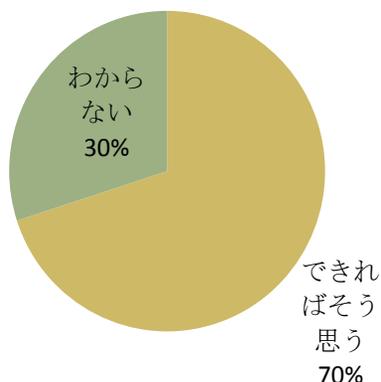
2016年7月15日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会in与那国島  
参加者11人 アンケート回答率90.9%



2016年7月15日（金）  
がん療養場所ガイドブック活用説明会in与那国島  
参加者11人 アンケート回答率90.9%

4.もし身内が、がんなどを患い  
自宅で最期を希望される時、  
自宅で看取りたいですか



5. 4の理由を教えてください

ガンになってみないとわからない。

その時にならないとわからない。苦しむ状態で自宅は困る（もちろんその場合は自宅ではないと思いますが）

自分の好きな所で亡くなるほうが幸せだと思うので。

病院と自宅の位置関係にもよる（離島と本島）

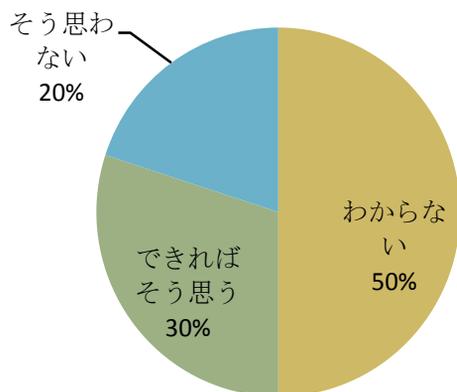
診療所で治療できれば本人の希望叶えてあげたいです。

本人が希望するから。

本人が一番ベストな環境で最後を過ごしてもらおうことがよいと思う。

2016年7月15日（金）  
がん療養場所ガイドブック活用説明会in与那国島  
参加者11人 アンケート回答率90.9%

6.ご自身が、もしがんなどで最期を迎えるとき  
自宅で迎えたいですか



7. 6の理由を教えてください

ガンにならないとわからない

いろいろ面倒だから迷惑かけたくない

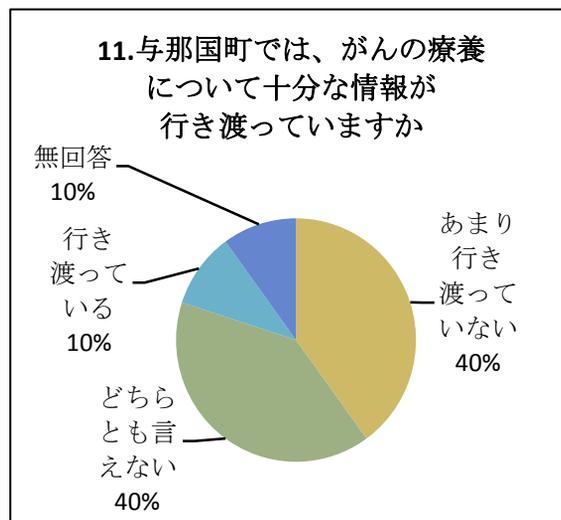
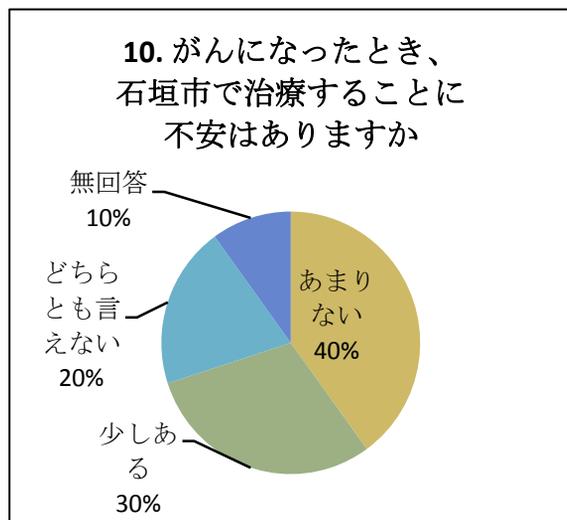
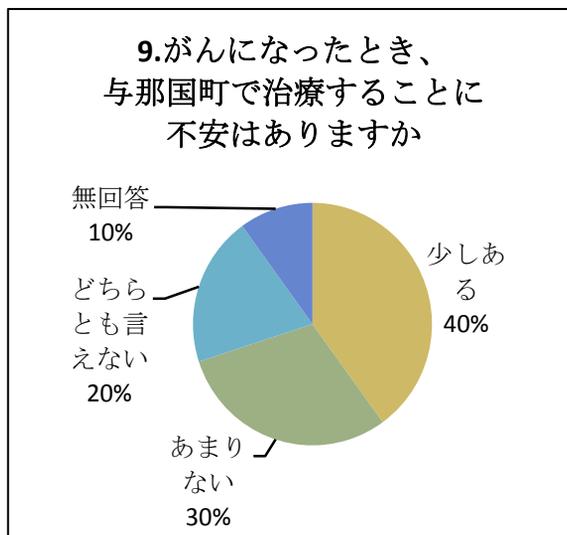
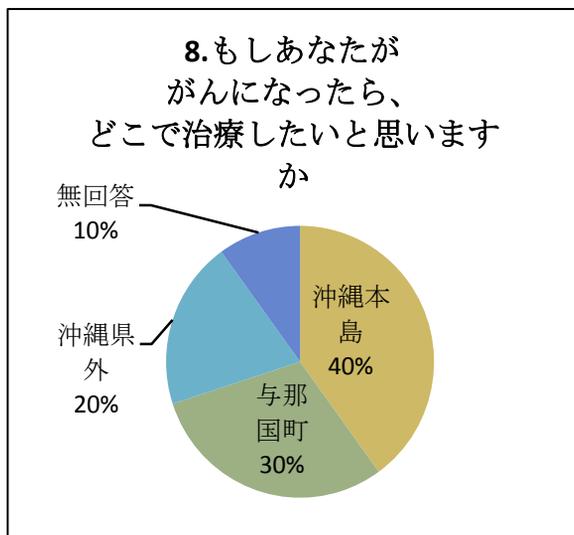
なかなか想像できない

身内に苦勞をかけたくない

自分はそう思っているでも世話をする家族の事を考えると複雑な気持ちになる。

2016年7月15日（金）

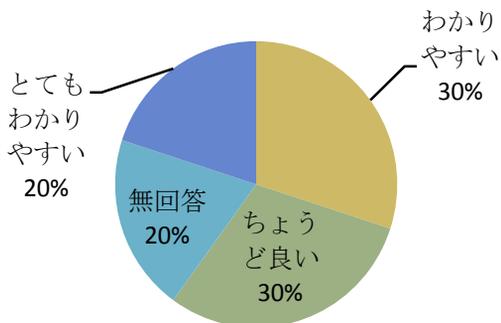
がん療養場所ガイドブック活用説明会in与那国島  
参加者11人 アンケート回答率90.9%



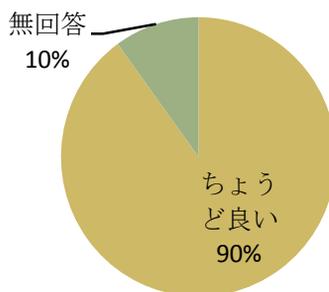
2016年7月15日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会in与那国島  
参加者11人 アンケート回答率90.9%

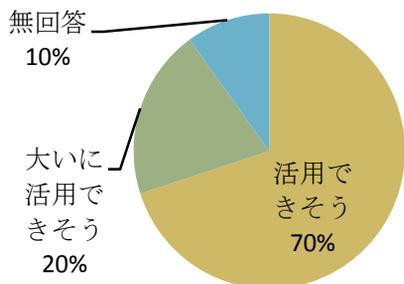
12.がん療養場所ガイドブックの内容について  
どう思われますか



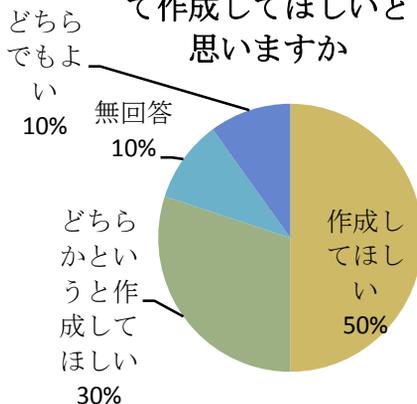
13.がん療養場所ガイドブックの文字の大きさ  
(フォントサイズ)について  
どう思われますか



14.がん療養場所ガイドブックを活用できそうですか



15.この冊子を、今後も継続して作成してほしいと思いますか



16. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

参加者が少なくもったいない。宣伝不足なのか？興味がない人が多いのか？（防災無線で聞いたので来たが、聞き取れないときもある）ガイドブックの存在を知っただけでも来てよかった（もちろん講話も良かったです）

説明会で話し聞けた事、自分自身の為に大変良かったです。  
色々勉強になりありがとうございます。

離島ならではの問題はありますが、大半が島で可能なことはたくさんあるんだなと改めて知ることができました。ありがとうございます。ふがらさー！！（与那国方言：ありがとう）

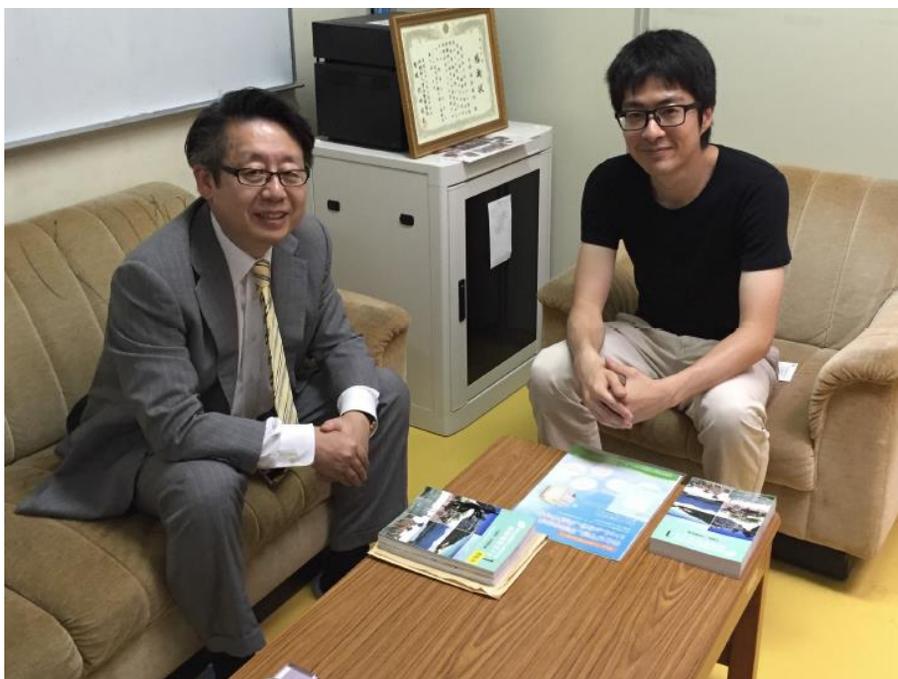
## ○ 当日の様子

### ■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 与那国島 開催にともなう面会依頼

(与那国町役場)



(与那国町診療所)



■療養場所ガイド活用説明会 in 与那国島

講演：「与那国島のできるがん医療」 与那国町診療所長 並木 宏文 医師



講演：「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



琉球大学医学部附属病院がんセンター  
平成28年度がん患者等支援事業

# がん療養場所ガイド活用説明会in 久米島町に関する報告書

2016年9月16日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を久米島町で実施した。活用説明会では公立久米島病院の藤田医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、久米島町役場、公立久米島病院、球美の島診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 久米島町  
開催にともなう面会依頼

(久米島町役場)

日 時：平成28年9月16日（金）10：00～10：30

場 所：久米島町役場

出席者：久米島町役場福祉課長 田端 智 様

久米島町役場 福祉課健康づくり班 班長 安里 順 様

久米島町役場 福祉課健康づくり班 崎村 亮介 様

久米島町役場 福祉課健康づくり班 保健師

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

(球美の島診療所)

日 時：平成28年9月16日（金）12：30～13：00

場 所：球美の島診療所

出席者：球美の島診療所長 吉村 純 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

(公立久米島病院)

日 時：平成28年9月16日（金）16：30～17：00

場 所：公立久米島病院

出席者：公立久米島病院 院長 深谷 幸雄 様

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

■療養場所ガイド活用説明会 in 久米島町

日 時：平成28年9月16日（金）19：00～20：00

場 所：久米島町役場 仲里庁舎 2階会議室

内 容：（1）講演「久米島でできるがん医療」

公立久米島病院 藤田 操 医師

（2）「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

（3）質疑応答

患者さんのための  
療養場所ガイド

久米島町編

琉球大学医学部附属病院 がんセンター

久米島町

久米島

久米島空港

久米島町役場

兼城港

オーハ島

豊石

奥武島

はての浜



がん専門医が伝える  
病院・診療所の上手なかかり方  
もしも島で  
がんになったら

久米島町のみなさまへ

現在、かなりのがん医療が公立久米島病院で行われています。また球美の島診療所と連携して、できるがん医療もあります。

今回の説明会では、久米島や本島でできるがん医療について、専門家の立場からお話したいと思います。

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長  
増田 昌人

—がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島—

（講演）

- ・久米島できるがん医療について 公立久米島病院 藤田 操 先生
- ・本書の概要と使い方について 琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

日 時：9月16日(金) 19:00-20:00(18:30開場)

場 所：久米島町役場 仲里庁舎 2階会議室

対 象：久米島町にお住まいのみなさん

参加費：無料

主 催：琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業

# もしも島で がんになったら

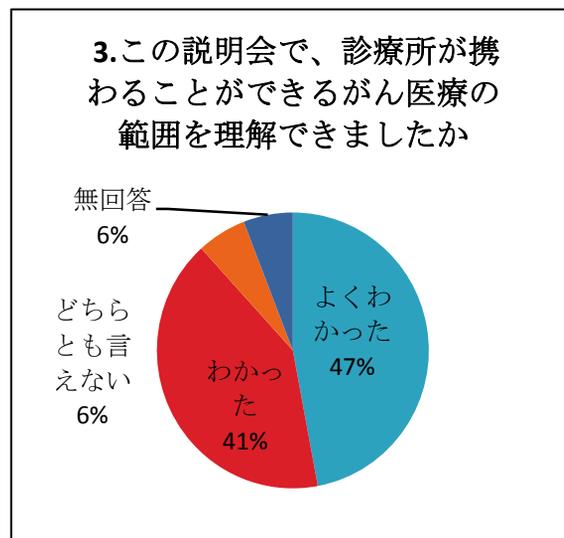
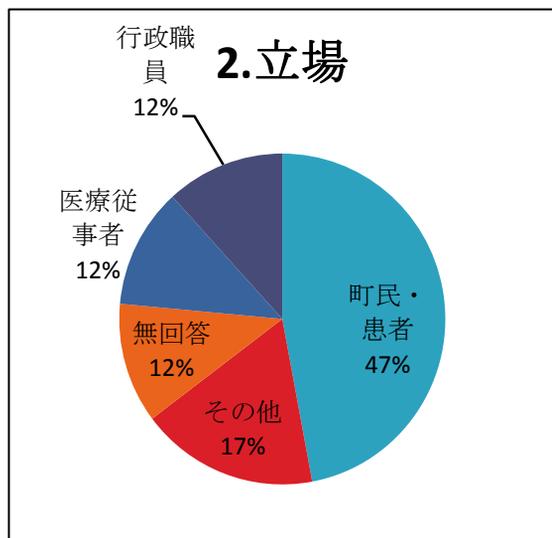
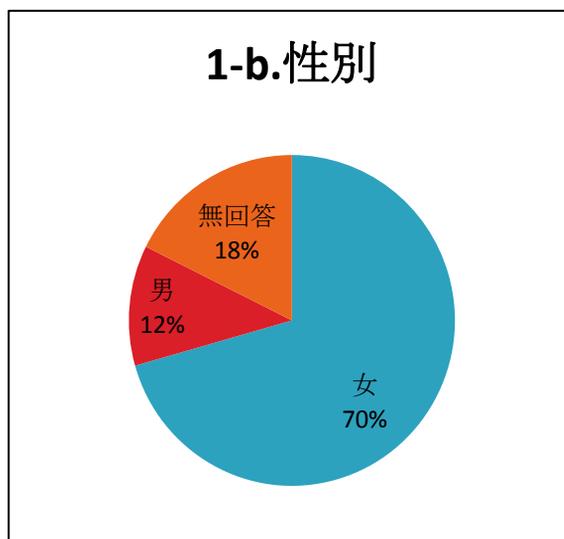
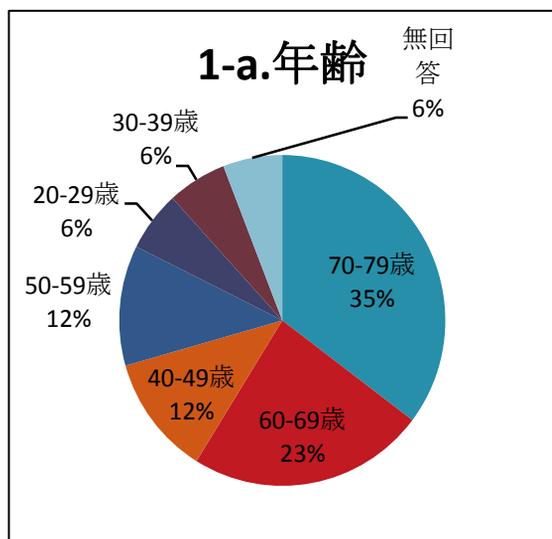
久米島でできるがん医療について

公立久米島病院 内科 藤田操

## がん患者さんのための療養場所ガイド 活用説明会 in 久米島

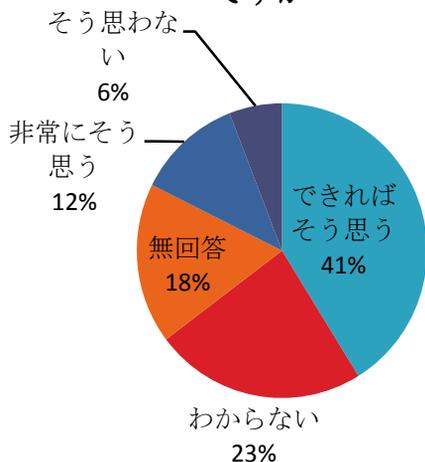
琉球大学医学部附属病院がんセンター  
増田 昌人

2016年9月16日（金）  
がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島  
参加者19人 アンケート回答率89.5%



2016年9月16日（金）  
 がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島  
 参加者19人 アンケート回答率89.5%

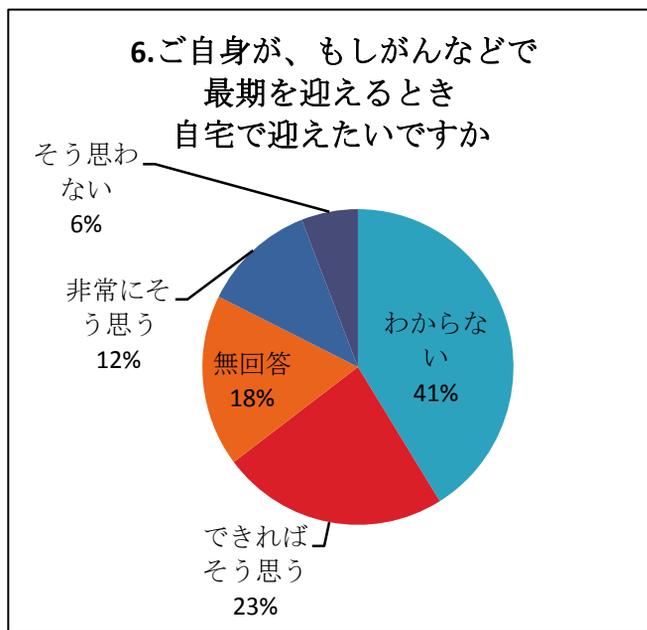
4.もし身内が、がんなどを患い自宅で最期を希望される時、自宅で看取りたいですか



5. 4の理由を教えてください

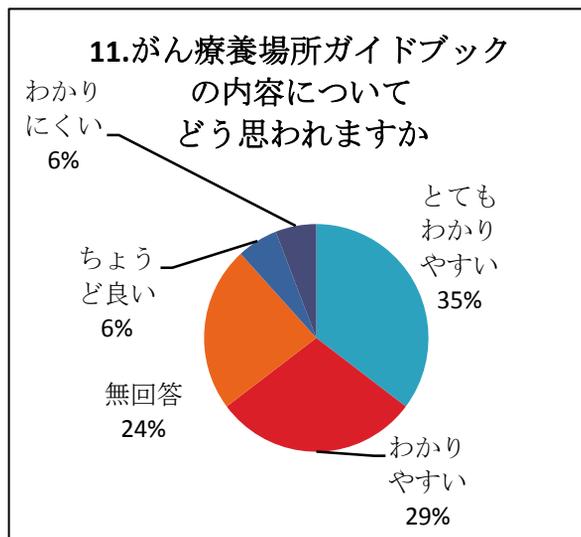
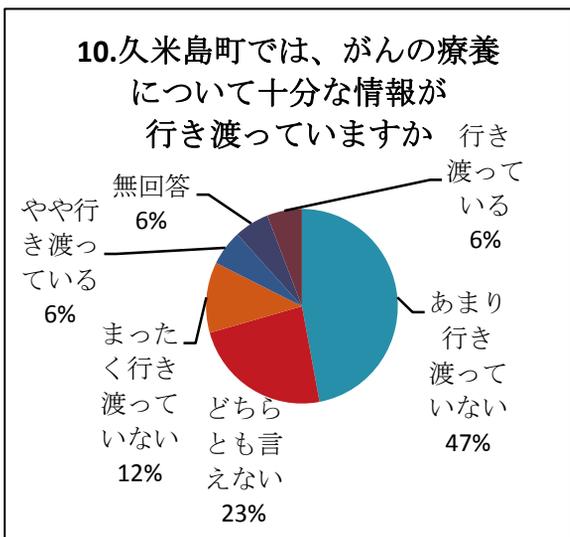
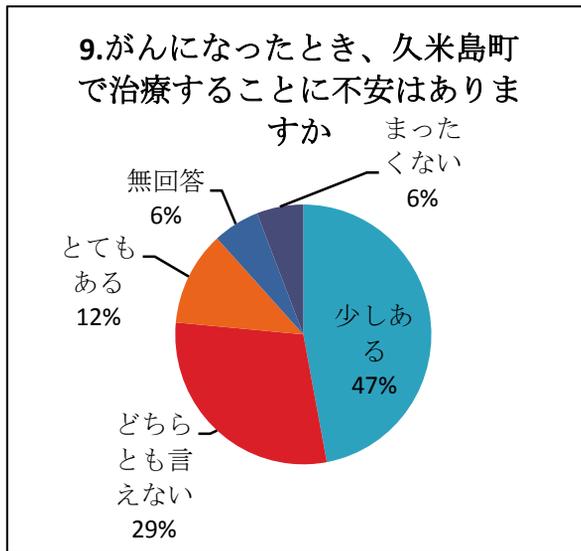
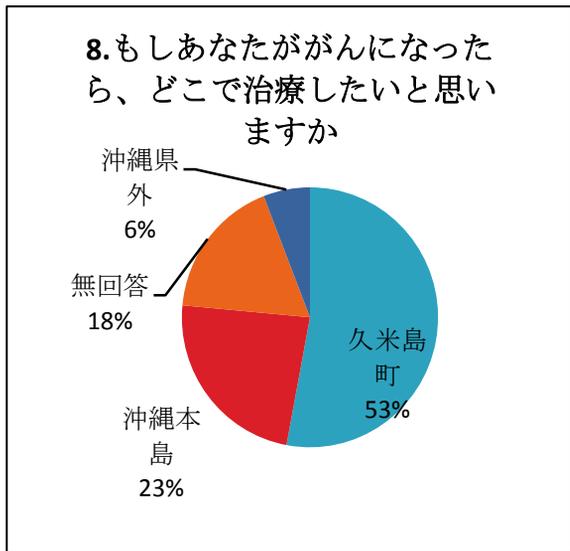
- 常に家族が居る状態でケアしたい。そして看取りたいです。
- 当事者（わたし）の状況により、よく対応ができるかわからないので。
- 自分がそうしたいから。
- 本人が希望すれば、安らかに。
- 私自身もがん患者なので、怖くて看取れないと思う。
- 最期は住み慣れた自宅で家族と暮らしながら生活して行ってほしいから。
- がんの転移にはどう対処すればいいのかわかりません。10月に治療のため、妹と一緒に那覇に出ます。
- なるべくなら、希望にそって支えたいと思います。
- 家族で世話する人がいるかどうか。子供たちは島外に住んでいるため。
- がんであろうとなかろうと、最期の時は本人の望むようにしてあげたいです。
- 最期は家族と一緒に暮らしたい。

2016年9月16日（金）  
 がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島  
 参加者19人 アンケート回答率89.5%

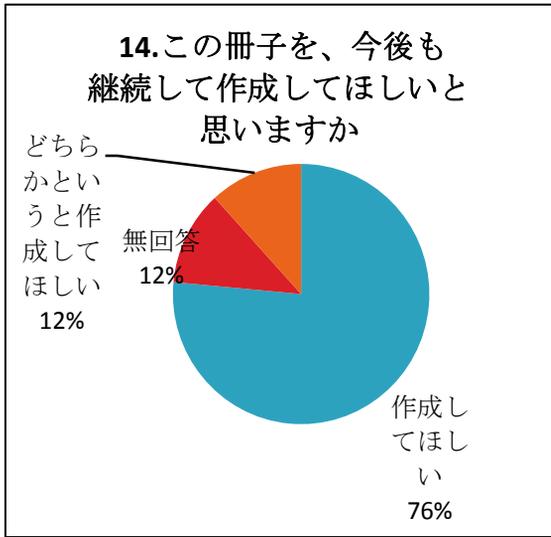
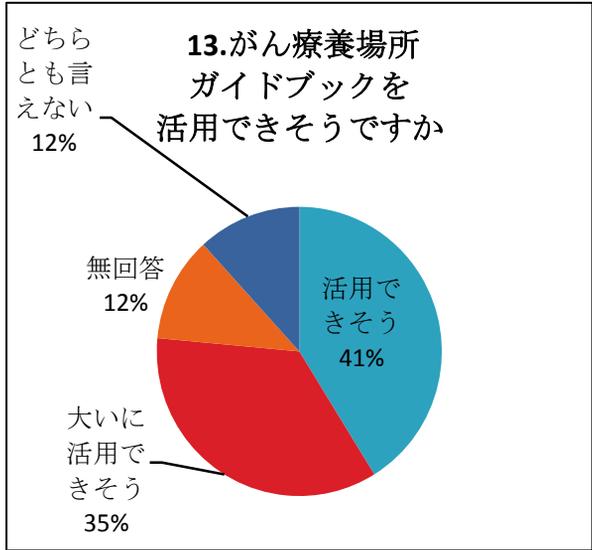
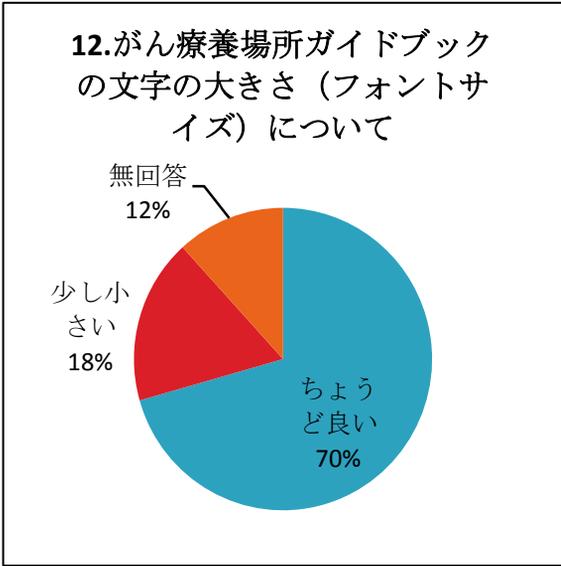


7. 6の理由を教えてください
できる限り変わらない生活の中で、環境で迎えられたい。
家族が対応できるか知らないのです。
がんは最後まで意識がはっきりしていると言われていたので、身内の顔や声を聞きながら息をひきとりたい。
疼痛コントロールしてのんびり生活する。
病院でできる事なら安らかに最期を迎えたいです。
家族に負担になる部分が気になるが、なるべくは自宅で最期を迎えたい。
家族に迷惑になるのでは？
4年前に乳がんになり、現在も那覇西クリニックに通院し治療中です。
もし病院にいた方が痛みを抑えられるといったことか、家族の負担にならないなら病院でも良いかと思いました。
家族で世話する人がいるかどうか。子供たちは島外に住んでいるため。
家族の負担を考えると申し訳ないので病院で治る見込みがなければ、ひどい姿を見せたくないのどこか誰もいない所で最期を迎えたい。知り合いのいない病院。
家族と一緒に過ごしたいが、負担はかけたくない。

2016年9月16日（金）  
 がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島  
 参加者19人 アンケート回答率89.5%

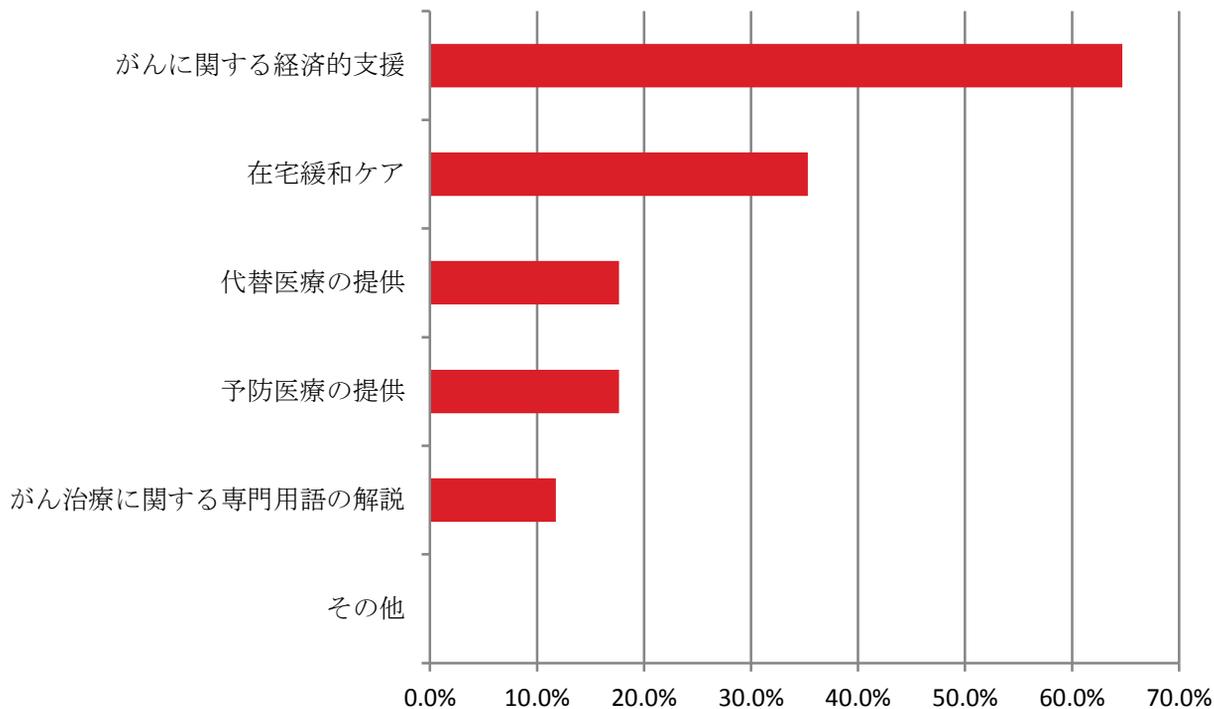


2016年9月16日（金）  
がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島  
参加者19人 アンケート回答率89.5%



2016年9月16日（金）  
 がん療養場所ガイドブック活用説明会in久米島  
 参加者19人 アンケート回答率89.5%

15.療養場所ガイドに追加で掲載を望む内容



16. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

在宅緩和ケアに興味がありました。

久米島で治療できることは安心にもつながりますが、十分に納得できないこともある。

説明がわかりやすかったです。こういう機会を作ってくださって感謝いたします。ありがとうございます。

とてもよかったです。

このような説明会は初めてでとてもありがたいと思います。久米島でどのような治療が受けられるのかといったこまかなことはこれまで知る機会がありませんでしたので…。また増田先生のあつい思いがとても伝わってきました。

説明会に参加してとても良かったと思います。病院では先生の顔色を伺いながらでしたが、今日の話しを聞き安心しました。

ありがとうございました。勉強になりました。

## ○ 当日の様子

### ■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 久米島 開催にともなう面会依頼

(久米島町役場)



(球美の島診療所)



(公立久米島病院)



■ 療養場所ガイド活用説明会 in 久米島

講演：「久米島のできるがん医療」 公立久米島病院 藤田 操 医師



講演：「本書の使い方、入手方法について」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



## 第5回 八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成28年7月14日（木） 15時～17時

場 所：沖縄県立八重山病院 2階 第1会議室

テーマ：八重山医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立八重山病院 院長 依光 たみ枝  
沖縄県立八重山病院 副院長 玉城 和光  
沖縄県立八重山病院 看護部長 渡口 直子  
沖縄県立八重山病院 副看護部長 中山 幸子  
沖縄県立八重山病院 内科医師 横山 周平  
沖縄県立八重山病院 地域連携室師長 宮良 久美江  
沖縄県立八重山病院 地域連携室副師長 平良 芳子  
沖縄県立八重山病院 地域連携室 伊良皆 香代  
沖縄県立八重山病院 化学療法認定看護師 内田 千穂  
沖縄県立八重山病院 看護師 金城 美奈子  
沖縄県立八重山病院 医事課 金城 香澄

八重山地区医師会 会長 上原 秀政

石垣市健康福祉センター 所長 具志堅 智

八重山保健所 健康増進班 班長 保健師 宮城 政代

八重山保健所 健康増進班 保健師 久場 香代子

八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会長 新城 純  
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子  
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 黒島 富士子  
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 書記 宮國 恵慈  
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会計 権藤 貴子  
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 新垣 フミ  
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 大濱 圭子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

陪席者：琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

議事次第、資料集、沖縄県がん患者さんのための療養場所ガイド(以下、療養場所ガイド)石垣市編の各配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <5分>

八重山地区医師会の上原会長を始め、初参加の方を中心に各自自己紹介をした。

3. 報告事項

(1) 第4回八重山医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告 <3分> 【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

前回の議事要旨が報告された。

(2) 平成27年度八重山医療圏がん医療連携協議会 実施状況<5分> 【資料2】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

昨年度までの本協議会の成果について分類別に整理し、本年度の取り組みを一同で確認した。下表の情報提供に関連し八重山病院に関する広報について依光院長より報告があり、広報委員会を立ち上げ各診療所向けの広報は済んでいること、ホームページへの掲載作業は進行中であること、石垣市と連携し広報活動を行うことなどが述べられた。

分類項目	H27年度の成果	課題	H28年度に向けた取り組み
連携	<p>○協議会を定期開催し、ステークホルダーが互いの現状を報告することで相互理解と連携体制が強化され、相手の立場を尊重して議論を行うことが可能になった。</p> <p>○患者会主催行事への医療者の参加について、必要に応じて協力してもらうことの承認が得られた。</p> <p>○医療連携の観点から、八重山地区医師会役員の本協議会参加要請が審議され、承認された。</p>	<p>○開催月が議会開催と重なると、行政からの参加が難しい。</p> <p>○八重山地区医師会役員の参加について、本協議会開催が一般診療の時間内の場合、参加困難な可能性が高い。</p>	<p>○本協議会の継続的な取り組みが、離島におけるがん医療の改善、質の向上につながる可能性があるため、今後も引き続き協議会を開催する。</p> <p>○開催月を考慮して行政が参加しやすい体制づくりをする。</p> <p>○八重山地区医師会役員の参加に向け、事務局は調整をはかる。</p>

分類項目	H27 年度の成果	課題	H28 年度に向けた取り組み
情報提供	<p>○患者会のチラシやポスターを、院内に配布・設置することが了承された。</p> <p>○診療科ならびに医師紹介について、広報の実現に向けて取り組むことが了承された。</p>	<p>○がん関連図書の設置が院内に散在している。</p>	<p>○診療科ならびに医師紹介について、広報を行う。</p> <p>○新病院開設時に図書コーナーを集約する。</p>
施設	<p>○患者会からの要望を受け、新病院に「がんサロン（仮称）」の実施が可能な共有スペースを設けることが決定した。</p>	<p>○「がんサロン（仮称）」の組織運営ならびにピアサポート活動そのものについて、患者会から不安の声が聞かれた。</p> <p>○診察室内の医師と患者の声が外に漏れやすい。</p>	<p>○「がんサロン（仮称）」実施に向け、病院・患者会の双方が連携して取り組む。</p> <p>○診察室の環境は、新病院開設時に対応する。</p>
講習会 勉強会	<p>○勉強会等の開催実現に向け、病院・患者会双方の連絡窓口を明確にし、連携体制を構築した。</p>		
人員配置	<p>○がんの部位別専門外来設置と専門医師の配置について、積極的に意見を交わした。</p>	<p>○短期赴任で医師の入れ替わりが頻繁である。</p>	<p>○新病院開設時に再度審議する。</p>
その他	<p>○八重山病院のがん診療体制が強化され、島内で可能な手術や治療について、院長ならびに腫瘍内科医である瀬尾医師より、患者会に向けて直接説明があった。</p> <p>○患者に対する医師のコミュニケーションについて、おもいやりを配慮した指導をしていきたいと院長から発言があった。</p> <p>○渡航費助成制度について、積極的に意見を交わした。</p> <p>○ファミリーハウス（病院周辺の宿泊施設）について、積極的に意見を交わした。</p>	<p>○渡航費助成の申請をする患者のなかには、島内で検査・治療が可能な場合があることを知らないケースが見受けられる。</p> <p>○周囲にがんが知られるのを恐れて、あえて島外で治療する現状がある。</p> <p>○ファミリーハウスの運営には費用やマンパワーがかかる。</p> <p>○ファミリーハウスの宿泊患者数が少ない場合、費用対効果が低い。</p> <p>○宿泊支援制度の利用実績は 1 組 2 名にとどまっており利用が少ない。</p>	<p>○地域住民に対し、八重山医療圏のがん医療の現状を正確に伝え、島内で対応可能なケースについては、八重山病院等で積極的に治療してもらう取り組みを行う。</p> <p>○がんを隠さない意識改革、早期発見・早期治療のがん教育に取り組む。</p> <p>○渡航費ならびに宿泊費支援は継続検討が必要であり、両者を分けずに議論する。</p>

(3) 腫瘍内科医 2 名の退職について<10 分>【資料 3】

- ・ 沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝
- ・ 沖縄県立八重山病院 副院長 玉城 和光

依光院長より、腫瘍内科医の人事に関連し、各医療機関に向けて抗がん剤治療に関する通知をした旨の報告があった。「島外の医療機関で手術した場合、術後初回の抗がん剤治療までは同施設で受けてもらい、2 回目以降を八重山病院でフォローしたい。なお八重山病院で手術可能な多くのがんについては、従来と変わらず対応できる」と述べた。

玉城副院長は「患者さんが相談なしで本島に行ってしまう。その後、手術をした病院から化学療法お願いね、となる」と述べ、適切な医療の提供には、顔の見える連携が必要との認識を示した。「レジメンを決め、患者さんに説明をしてから八重山に送ってほしいとお願いをした」と、各医療機関に通知した経緯を説明した。

(4) 第 4 回協議会から先月までのがんに関する取り組みについて <各 3 分程度>【資料なし】

がんに関する取り組みについて、各団体の代表者より下記の報告があった。

【やいまゆんたく会】

新城会長より月別の活動状況について報告があった。「いのちの授業」「八重山の医療を守る郡民会総会」等への参加があった。

【八重山地区医師会】

初参加となる八重山地区医師会から、上原会長が抱負を述べた。八重山病院をのぞく八重山地区の医療機関は全て医師会に所属している。地域医療の窓口として医師会が係わることで、本協議会に新たな展望が開けるのではないかと述べた。次回以降も参加したい。

【沖縄県立八重山病院】

依光院長ならびに玉城副院長から、以下 3 点の報告があった。①緩和ケア専従認定看護師の 9 月実施の研修会参加について。②がん相談員の勤務について。③「がん診療委員会」設立について。③については、がんに関する各部会など包括した委員会であるとの説明があった。

【石垣市市民保健部健康福祉センター】

具志堅所長より平成 27 年度の渡航費助成事業の実績報告があった。申請件数は 201 件（実人数は 116 人）、うち悪性新生物は 82 件であった。昨年度の予算額は補正予算を含め 225 万円。限られた予算で実施している。

【八重山保健所】

久場保健師からがん対策を含む、健康づくり全般について報告があった。「八重山地区健康おきなわ 21 推進会議（2 回/年）」の部会のひとつ「生活習慣病部会」では、市町村におけるがん検診の受

診率ならびに現状と課題を確認し、住民が受診しやすい体制について話し合った。5月には保健所が各市町村に出向き健康づくり全体の情報交換を行い、現在、石垣市と共催で役所内にてがん検診のパネル展示を行っている。タバコ対策では「禁煙施設認定推進制度」の八重山管内の認定施設数は230件で、他の圏域と比較し3番目に多いと報告があった。

#### 【琉球大学医学部附属病院がんセンター】

増田センター長より報告があった。昨年度末、離島へき地に暮らすがん患者さんおよびご家族に向けて、療養場所ガイド全8巻を発行した。本書の活用推進を目的とした説明会を西表島、座間味島で行い、多くの島民の参加があった。本協議会の翌日(7/15)には第3回目を与那国島で開催予定である。

#### 4. 審議事項

##### (1) 呼吸器内科医・腫瘍内科医の配置について<15分>【資料4】

・沖縄県立八重山病院 地域連携室 宮良 久美江 平良 芳子 伊良皆 香代

沖縄県に対し、地域連携室の宮良師長から呼吸器内科医・腫瘍内科医配置に関する要望が寄せられた。要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

##### 1. 要望に至った状況

肺がん罹患患者の増加に伴い、島内、島外からの当院への紹介患者も増加している。島外での手術や放射線治療後、当院での化学療法、緩和ケアを希望し紹介されるケースも年々増加傾向である。しかし、当院の呼吸器内科は現在週1回の応援体制であり、常勤医師は不在である。昨年までは、腫瘍内科医が2名常勤していたため、常勤の呼吸器内科医が不在でも、肺がん患者の化学療法や緩和ケア、紹介患者の相談などの対応などは比較的スムーズに行えていた。しかし、今年3月に腫瘍内科医2名が退職したことで、日々の紹介患者の受入れ相談や化学療法患者のレジメン相談などを、専門外の内科医やがん化学療法看護認定看護師が相談を受け対応しているが、常勤の医師が不在であることから、身体的だけでなく精神的な負担が大きい。

##### 2. 実施により期待される効果

- 1) 受入れ患者の増加(島外・島内からの紹介患者受入れ)
- 2) 常勤医師がいることによる患者・家族の不安軽減
- 3) 医療者の不安や身体的・精神的負担の軽減
- 4) がん治療、緩和ケア治療の質の向上

##### <状況>

本件について玉城副院長より補足説明があった。現在、医師の人員構成は、およそ4~5割が中部病院からの派遣である。新専門医制度の導入で経験の浅い医師が増加すること、研修終了後にどう医師を確保するかなど、今後が懸念される。行政、関係医療機関には、このような状況に配慮した

医師の人材育成・人材派遣をお願いしたい。

これら発言を受けた患者会からは「厳しいね」「ますます不安だね」という声が漏れ聞こえたが、玉城副院長は、治療レベルを落とさないよう職員一同取り組んでいること、市民の理解を深めるために婦人会をまわり、出前講座を開催して八重山病院でできることを広報していると述べ、八重山病院の状況を多くの人に知ってほしいと話した。

#### <協議結果>

- ・まずは八重山病院の現状を伝える。【八重山病院】
- ・引き続き協議を重ね、県に対し人員不足の問題解消を要望する。【協議会⇒沖縄県】
- ・石垣市が医師を確保し県立病院に委託することを検討してはどうか。【増田⇒石垣市】
- ・出前講座を患者会主催で開催したいので協力をお願いしたい。【患者会⇒八重山病院】

#### (2) 経済的困窮者の支援体制の構築について<15分>【資料5】

・沖縄県立八重山病院 地域連携室 平良 芳子 宮良 久美江 伊良皆 香代

地域連携室の平良副師長より、沖縄県ならびに石垣市に対し、経済的困窮者の支援体制の構築に関する要望が寄せられた。要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

##### 1. 要望に至った状況

経済的困難が理由で、治療継続への不安があり相談を受けるケースが際立つ。既存の利用できる制度はあるが（傷病手当等）治療を継続するための十分な支援には至っていない現状がある。もともとの生活水準が低いため、治療費の捻出ができなくなるケースもある。治療しながらの就労も厳しいこともあり、特に、就労・子育て世代への経済的な支援体制の構築の必要性は高いと考える。

##### 2. 実施により期待される効果

###### 1) 経済的な不安と負担緩和

#### <状況>

現状について地域連携室の平良副師長より報告があった。現場で相談支援に携わっているが、低所得層が多いため、民間保険に入っていない、あるいは解約したケースが目立つ。多忙な世代も多く、病院を訪れたときにはステージが進行しているケースも少なくない。離島は本島への渡航費も加わり、治療継続にともなう患者の経済的負担が非常に大きい。ぜひ県や市が医療費助成制度を設け、がん患者の経済支援を行ってほしいと訴えた。

石垣市の具志堅所長は「生活保護受給者であれば優遇措置がある。受給基準に満たないギリギリの状態では苦しいが、保険料を低く抑えるなど差別化はしている」と説明した。その上で、生活困窮者への新たな支援策については検討を深める必要があると述べた。

<協議結果>

- ・具体的な議論は次回以降に持ち越し、引き続き協議を重ねる。【協議会】
- ・石垣市でなにができるか、中長期的な視点で対応策を検討する。【石垣市】

(3) 八重山医療圏がん医療連携協議会実施要項の制定について<20分>【資料6】

- ・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

いくつかの団体から本協議会の会則について問い合わせがあった。これを機に要項を定めたい。

<状況>

本協議会にはこれまで規約がなかった。前身の意見交換会に端を発し、形式張らない形で会が立ち上がったことが要因である。しかし定期開催も定着し、扱う議事も大きくなってきたため要項を定めることを提案する。

<協議結果>

- ・要項の作成に賛成が得られた。【協議会】
- ・各自内容を持ち帰り、次回までに要項を定める。【協議会】
- ・協議会を八重山病院に設置する。【八重山病院】
- ・協議会に関連する庶務業務は引き続き琉大病院がんセンターが担当する。【増田】

(4) がん患者さんのための療養場所ガイドに対するご要望について<5分>【別冊】

- ・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

すでに本書を関係施設に配布済みである。今後の利用方法について協議したい。

<協議結果>

- ・本件に関する具体的な議論は次回以降に持ち越しとなった。【協議会】
- ・修正依頼については、随時事務局にて受け付ける。【増田】

5. 閉会のご挨拶 <5分>

- ・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝先生

「当初の座談会が協議会となり、要項も作成して市や県に要望書を提出しようというところまで発展したことを嬉しく思う」と述べ、すべての議事を終了した。

# 第6回 宮古医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成28年7月22日（金） 14時～16時

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂2

テーマ：宮古医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立宮古病院 院長 上原 哲夫

沖縄県立宮古病院 副院長 本村 悠子

沖縄県立宮古病院 医師 松村 敏信

沖縄県立宮古病院 看護部長 平良 弘子

沖縄県立宮古病院 師長 金城 春美

沖縄県立宮古病院 地域連携室 古謝 亜希

沖縄県立宮古病院 外来救急室 がん性疼痛看護認定看護師 青沼 裕美子

沖縄県立宮古病院 副薬局長 垣花 真紀子

宮古島市生活環境部 健康増進課 係長 島袋 英虎

宮古島市生活環境部 健康増進課 儀間 康子

宮古保健所 健康推進班 保健師 知花 真希

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 小路 千恵子

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 記録 砂川 洋子

まんま宮古 天久 洋子

沖縄県健康長寿課がん対策班 主査 徳田 麻紀子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

陪席者：琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



### 1. 開会のご挨拶<1分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

議事次第、資料集、沖縄県がん患者さんのための療養場所ガイド(以下、療養場所ガイド)宮古島市編の各配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

### 2. 出席者の紹介 <5分>

沖縄県健康長寿課がん対策班の徳田主査を始め、初参加の方を中心に各自自己紹介をした。

### 3. 報告事項

#### (1) 第5回宮古医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告 <5分>【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

前回の議事要旨が報告された。

#### (2) みんなで花を咲かせるプロジェクトの経過報告<3分>【資料2】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

真栄里会長より報告があった。病院入口に設けた花壇で花が咲くまでのプロセスや、若尾がん対策情報センター長(国立がん研究センター)から花壇に名称を付けるアドバイスがあったこと、本プロジェクトに協力した団体や個人の発表があった。これを受け本村副院長は、協力者に向け病院から礼状を出したい、花壇は来院者の癒しになっていると感謝を述べた。

#### (3) 第5回協議会から先月までのがんに関する取り組みについて

がんに関する取り組みについて、各団体の代表者より下記の報告があった。

#### 【患者団体】

まんま宮古の天久氏より、5月に乳がんに関する勉強会に参加した旨の報告があった。患者の立場ではあるが、最新の医療知識を吸収し患者支援に役立てたいと意欲を述べた。

#### 【沖縄県立宮古病院】

地域連携室の古謝相談員より報告があった。がんサロンを定期開催しているが参加人数が少ない。そのため新聞での呼びかけや、開業医にチラシを配布し院内への提示をお願いしている。琉大病院がんセンター発行の「療養場所ガイド」は地域連携室向かいの情報コーナーに設置し、希望する患者さんに配布をしている。

#### 【宮古島市生活環境部健康増進課】

島袋係長から報告があった。乳がん患者会のまんま宮古と乳がん検診受診率向上について話し合いをした。さらに庁舎内にポスターを掲示し、積極受診を呼びかけている。宮古病院との共催による「島のコラボ健康講座」では、がん医療に関する内容を予定している。

#### 【宮古保健所】

知花保健師より報告があった。3/1～3/8 の「女性の健康週間」では、健康づくりに関する新聞記事掲載やパネル展示を行った。さらにがん検診受診率向上のチラシを作成し、市村、保育所、産科へ配布した。6 月には宮古島市、多良間村に出向いて情報交換会を実施し、現状の確認や今後の連携について意見交換を行った。

#### 【沖縄県健康長寿課がん対策班】

徳田主査より、本年度から新設されたがん対策班について説明があった。これまで県のがん事業は「予防」と「医療」の所管課が別で連携が図れていない側面があった。4 月からは健康長寿課内で「がん対策班」として、班長を含む 3 人体制でがん対策にあたっている。今後は琉大病院がんセンターと連携して活動していきたい。

#### 【琉球大学医学部附属病院がんセンター】

増田より報告があった。昨年度末、療養場所ガイドを発行した。西表島、座間味島、与那国島で活用説明会を開催したが、一辺倒な説明内容では島民に情報が伝わらないことを実感している。本書を通じて市町村長に懇談の機会をいただき、渡航費助成に理解を求める活動も並行して進めている。ぜひ関係者の方々には本書を積極活用してほしい。

### 4. 審議事項

#### (1) 血液内科の診療体制について

下記について、①協議事項・②要望事項はどちらも血液内科に関する事項のため、同時に審議された。

##### ①血液内科外来の診療状況について<10分>【資料3】

- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会 ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次

病院の体制がまだ整ってないので治療が難しいとのことだが、今はどのくらいのことができていのか。宮古で診られたい患者さんをいつ頃から診てもらえるか。早く診療体制を整えて「体力が大変、お金が大変、宮古で治療や入院をしたい、」と思う人が、宮古病院を受診できるようにしてほしい。

##### ②血液内科の診療体制充実に関する要望について<15分>【資料4】

- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会 ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次

要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

#### 1. 要望に至った状況

昨年 10 月から血液専門外来ができて中部病院の朝倉先生が月 1 回でみえるようになり心強く、とても感謝している。だが、未だ宮古病院での治療体制は十分ではない。診察は宮古病院、治療は徳洲会病院という患者さんもいる。また月 1 の診察なので先生に診てもらえる患者さんの人数が限られている。諦めて本島の病院で治療している人もいる。血液の患者さんは、病気の関係で貧血があ

る、治療の影響で免疫低下があり感染しやすい、体力が弱い。移動の負担は大きく、長期の治療による経済負担は重い。患者さんの置かれた状況は切実だ。出来るだけ早く島で治療できる体制が整うことを要望する。

## 2. 実施により期待される効果

住み慣れた地域で安心して治療できる。体力的負担、経済的負担、精神的負担が軽減される。

### <状況>

上原院長から、病院提出の資料【最終頁参照】に沿って説明があった。内科において血液疾患は専門性が高く、専門外の医師が積極的に診療に関わらない。化学療法看護認定看護師もおらず、医師・看護師ともに人手が不足している。月に一度、朝倉先生ひとりが診療を担うだけでは対応に限度があり、患者会の希望に添えないことは心苦しい。内科医と朝倉先生が話し合いを持ち、どこまで対応できるか模索することが今後の課題だ、と述べた。

これを受け患者会から発言が相次いだ。川満副会長は「約1年前、上原院長に直談判し外来を新設していただいた。やっと朝倉先生に診てもらえたが、診察はするが治療は別だという」と診療体制に不満をにじませた。現在は本島を含む3施設に通院中といい「宮古徳洲会では専門外の医師が専門医の指導のもと抗がん剤治療を行っている。院長、県の担当者は現状をふまえて、なんとか宮古病院で治療できる体制を整えてほしい」と強く訴えた。真栄里会長は離島にも専門医や認定看護師が行き渡るよう県に対策を求めた。

外科での化学療法について聞かれた松村外科部長は「術後の経過をよくするために行う」と血液内科との違いを強調し、「副作用もある。指導だけではだめで、治療の責任が取れるかどうかだ」と専門外の医師が治療する難しさを伺わせた。

増田は県に対し「医師不足の問題だが、数で埋めるのではなく専門性が重要だ。地域で活躍する総合医の存在は欠かせないが、中核病院に配置する専門医を育成することも大事」と述べ、「疾患の患者数は地域で異なる。ここから定数を算定すれば、より現実的に人員の過不足が判断できる」と、新たな視点に基づく医師の育成と適材配置について期待を寄せた。

### <協議結果>

- ・内科で話し合いの場を設け、本件に関する今後の対応を検討する【宮古病院】
- ・離島に専門医や認定看護師が行き渡る対策を要望する【患者会⇒沖縄県】
- ・初歩的な治療からでも、化学療法を開始してほしい【患者会⇒宮古病院】
- ・「地域枠」で専門医を養成し、診療科・地域枠の偏在を是正できないか【患者会⇒沖縄県】
- ・3ヶ月交代の医師派遣など、診療拡大につながる検討をしてほしい【増田⇒宮古病院】
- ・治療強度が低い化学療法(内服抗がん剤など)の実施を検討してほしい【増田⇒宮古病院】

## (2) 宮古島市難病患者等に係わる航空運賃助成について

下記について、①協議事項・②要望事項はどちらも航空運賃助成に関する事項のため、同時に審議された。

### ①平成27年度航空運賃助成の利用状況について<10分>【資料5】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会 ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

昨年度の利用状況が知りたい。これまでの話し合いでは、難病枠が増え予算がどのくらい膨らむのか不明なため、渡航費の回数は増やせないとの回答があった。昨年の状況から増やすことは可能か。

### ②航空運賃助成（渡航費支援）の回数増に関する提案について<15分>【資料6】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会 ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

#### 1. 要望に至った状況

年に何回も島外で受診する患者さんがいる。経済負担を鑑み、回数を増やしてほしい。多良間村は昨年から1回上限5万円とし、年5回までの制度利用が可能だ。また難病とがん、双方の対象者はそれぞれ別で利用することができ、同行者支援もあると聞いている。

#### 2. 実施により期待される効果

経済負担の大幅な軽減。

#### <状況>

要望先である宮古島市の儀間氏より航空運賃助成の利用状況について報告があった。27年度は予算200万円に対し、執行額が182万4500円で、内訳はがん患者本人61人、患者付き添い3人、難病患者28人、小児慢性15人、患者付き添い15人であった。本年度の予算は昨年同様200万円である。現在、指定難病は306疾病あり、がん患者の渡航回数を増やすことは難しい。

報告を受けた真栄里会長は「建設中のドーム施設には多額な費用が投じられている。なぜ渡航費助成はたったの200万円なのか。もっと福祉に力を入れてほしい」と予算編成の見直しを求めた。川満副会長は「通院は旅行とは違う。病気の場合、前もって予定できない。最低限、航空費は実費での助成をお願いしたい」と話した。天久氏は「多良間村と比べ、なぜここまで助成内容に差がつくのか」と疑問を投げかけた。

儀間氏は「自身が難病対象であることや、本制度を知らない人もいる。まずは積極的に広報をして、次年度に向けて予算確保をしたい」と現状への理解を求めた。川満副会長は「島外で療養する実態を市はどこまで把握しているのか。ぜひ調査して、内容を精査した上で次回の予算獲得に反映してほしい」と実態把握を要望した。

#### <協議結果>

- ・宮古島市における島外療養の実態把握と助成金の増額を要望する。【患者会⇒宮古島市】
- ・長期治療が必要な患者に対し、特例での助成金増額を検討してほしい。【患者会⇒宮古島市】

- ・石垣市と比較し、予算はほぼ同額だが罹患数は100人ほど宮古島市が上回る。ひとり当たり、同等の支援ができるよう検討してはどうか。【増田⇒宮古島市】

(3) がん検診向上への取り組み要望について<10分>【資料7】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

宮古島市ではがんが進行した状態で病院に来る人が多い。早期発見の取り組みとして、関係者が一体となり、がん検診のキャンペーンを実施することを要望する。

1. 要望に至った状況

宮古島市でがん検診キャンペーンを実施したい。那覇では毎年10月にピンクリボン運動が行われている。運動を通じてがん検診受診率が向上し、がんの早期発見につながる。みんなで力を合わせて実現したい。

2. 実施により期待される効果

がん検診受診率の向上。がんの早期発見、早期治療の実現。がんに対する正しい知識の広まり。

<状況>

保健所の知花保健師は「現時点でキャンペーンの詳細はわからないが、街頭キャンペーンや保健所内での普及啓発であれば職員を動員できる」と協力を前向きな姿勢を示した。宮古島市の島袋係長は「庁舎内のポスターで積極受診を呼びかけている」と話した。真栄里会長は「それぞれが個別に活動しても弱い。関係者が相互に連携して取り組めば効果も大きい。一同が集い顔の見える関係になることも大きな意味がある」と述べた。

松村外科部長は市内の受診率について「住民の数パーセントしか検診を受けない。要精密検査が出て半分は放置して病院に行かない」と述べ、「まず検診を受ける。陽性になったら調べる。こうした運動でもして改善しないと、全国に比べて10パーセントも予後が悪い沖縄の状況はなにも変わらない」と警鐘を鳴らした。

増田は「沖縄県はがん死亡率の改善率が悪い」と発言した上で、宮古島市に対し「キャンペーンも重要だが、要精密検査を放置する人、がん検診を受診しない人に直接電話をかけるコールリコールの実施もぜひ検討してほしい」と要望した。

<協議結果>

- ・街頭キャンペーン等であれば職員を動員し、協力が可能【宮古保健所】
- ・実現に向けて企画を具体化し、改めて患者会から各関係者に提案する【患者会⇒協議会】
- ・検診受診率を確実に向上するコールリコール事業の実施も検討してほしい【増田⇒宮古島市】

(4) オープンホスピタルへの患者会参加について<5分>【資料8】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

今年も患者会ブースを頂き参加させていただきたい。昨年の反省を踏まえ、ポスター展示だけでなく待機して説明をしたい。

<協議結果>

- ・患者会の出展ブースを確保した。イベントポスターを市内の学校に配布済み。【宮古病院】
- ・ブースには交代で人を配置し、活動や展示内容を説明する。【患者会】

(5) その他<5分>【資料9】【資料10】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会 ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

その他、病院への要望事項として、病院駐車場の無料化（子供が入院中の親に対し特例で無料）、院内での絵画展示のお願いがあった。

<協議結果>

- ・駐車場の有料化は県の条例によるもの。特例対応については持ち帰り検討したい。【宮古病院】
- ・絵画展示は患者さんの和みになる大変良い取り組み。総務課と調整し進めていきたい。【宮古病院】

(6) 宮古医療圏がん医療連携協議会実施要綱の制定について【資料11】<15分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

いくつかの団体から本協議会の会則について問い合わせがあった。これを機に要項を定めたい。

<状況>

本協議会にはこれまで規約がなかった。前身の意見交換会に端を発し、形式張らない形で会が立ち上がったことが要因である。しかし定期開催も定着し、扱う議事も大きくなってきたため要項を定めることを提案する。

<協議結果>

- ・要項の作成に賛成が得られた。【協議会】
- ・各自内容を持ち帰り、次回までに要項を定める。【協議会】
- ・協議会を宮古病院に設置することについて、持ち帰り検討する。【宮古病院】
- ・協議会に関連する庶務業務は引き続き琉大病院がんセンターが担当する。【増田】

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫先生

「回を重ねながら課題を見つけ、改善をはかりながら患者さんにとってよい医療環境を整えていきたい」と上原院長からあいさつがあり、すべての議事を終了した。